



sapporo
education and culture hall
news

raku

Lasalle Ishii presents

HEADS UP!

SAPPORO

12.3 thu.

[インタビュー]

ラサール石井 [原案・作詞・演出]

ミュージカル

HEADS UP!

哀川 翔

やるからには、全力でやる。
哀川翔が進化し続ける理由。

一回始めたら、やめないんだよ。だって、やるって決めたから。

「今回、初めてミュージカルに出演されますが、心境は？」
ミュージカルというか、舞台上に立って芝居を演じること自体がまだ2回目だから。今は映画とかバラエティとかいろいろ出てるけど、もともとは歌手がスタート。ステージに立つことには慣れてるんだけど、舞台俳優としてはほとんど素人だよ。だけどラサール石井さんが、ちょっとやろうよ、と。彼との付き合いは長くて、哀川さん、安心して任せてください」って声をかけてもらったら、もうやるしかないきつと周りの方が大変だと思うけど(笑)。

「いつもは表舞台に立つ役柄ですが、今回は裏方の舞台監督役ですね。」
映画では監督を経験しているし、モノづくりという意味ではまったく一緒。ただひとつだけ違うのは、映像の方は毎日毎日台本が減っていくんだよ。撮り終わったら最後には台本はゼロになるんだけど、芝居は

まったく逆。練習を積み重ねるほど台本が増えていくんだよ。最初舞台をやった時はそれでかなり痩せたね。監督が限界まで追い詰めるんだもん。でも、幕が開いたらこっちのの。舞台ってライブみたいなものだから。ただ、コンサートは歌手の単独ステージだけど、いろんな人が融合してつくるのが舞台だから。まわりをよく見て上手く噛み合わせていかなないと、人は感動しないんだよ。いろいろなことにチャレンジする哀川さんですが、何歳になっても挑戦し続けられるのは？」
俺はチャレンジしているんじゃない、ただやめずに続けているだけ。ほんとは、誰だっていろんなことをしてきているんだよ。ただ途中で諦めてしまっているだけなんだよね。俺は歌もそうだし、車や昆虫の趣味も、一回始めたらやめないの。だって、やるって決めたんだから。だからやるのがどんどん増えていったちやうんだよ。ただただ続けていた

ら、カプトムシの大きさがギネスの世界一の記録を取っちゃったっていう(笑)。別に特別な育て方をしているわけじゃなくて、良く食べれば大きく育つんだから、虫にとっておいしいものは何かってずっと考えて研究してたら良く食べるものが見つかったというだけ。相手のことを、よく考えるだけなんだよ。

「それは、舞台でも同じなんですよ。まわりをよく見て、足りないところを埋める作業をする。中央に立つ人間はそうじゃなきゃいけない。俺たちの仕事は、人に求められてなんぼ。やって欲しいと言われて初めて成り立つ仕事だから、それは勲章だよ。」

「最後に、公演を観に来るみなさんへメッセージを。」
今回の舞台はどうなるのか、誰にも予想がつかない。今までにこんなパターンなかったんだから。でも、やるからにはちゃんとやるよ、俺は。全力でいくから、みんなが満足できるものを、きっと観せられると思います。



見えるものは必ず見えないものに支えられている。

原案・作詞・演出 ラサール石井

私はもう10年以上前から、今回のお芝居の構想を熱く語ってきました。しかし誰に話しても反応はいまいちでした。裏方さんを主役にし、一般の人が見たこともない「仕込み」と「バラ」を描く。しかもそれをミュージカルで！ 誰にも理解してもらえなかったのです。でも私には自信がありました。芝居が始まる前と終わってから、決して普段は見られない陰の苦労。でもその陰のスタッフの力がなければ私たちは何もできません。それは、すべての仕事において言えること。なのに我々はその苦労に感謝の気持ちを忘れがちです。見えるものは必ず見えないものに支えられている。その気持ちを込めてこのミュージカルを作りました。



ミュージカル HEADS UP! ヘッズ・アップ!

12月3日[木] 19:00開演(18:30開場)
札幌市教育文化会館 大ホール

料金/全席自由 5,500円(Ⓢ5,000円)

[チケット] 教文・大丸・道新各プレイガイドにて発売中
ローソンチケット(Lコード:14965)・チケットぴあ(Pコード:444-954)

[演出] ラサール石井
[脚本] 倉持裕
[出演] 哀川翔、相葉裕樹、橋本じゅん、青木さやか、入野自由、大空祐飛、中川晃教 ほか

公式ホームページ
<http://www.m-headsup.com>

哀川翔

「俳優」
ミュージカルヘッズ・アップ!

映画、テレビに留まらず、ラリー競技参戦、今年はギネスブックにも載るなどさまざまな分野で話題を提供し続ける哀川翔さん。初挑戦のミュージカルについて、意気込みをお聞きました。

Show Aikawa
Interview
哀川 翔インタビュー

やるからには、全力でやる。
哀川翔が進化し続ける理由。

Aikawa Show

1961年生まれ。一世風靡セピアでレコードデビュー。TVドラマ「とんぼ」連続ドラマ(TBS)、映画「オルゴール」で一躍脚光を浴びる。1990年、東映Vシネマ「ネオチンピラ・鉄砲玉びゅ〜」/高橋伴明監督作品が大ヒット、1991年の「獅子王たちの夏」で、破滅的なアウトローを力演。1999年に「第8回日本映画プロフェッショナル大賞」、2002年には「第1回DVシネマ大賞」でそれぞれ最優秀主演男優賞を、2004年に「第13回日本映画批評家大賞」でベストパーソナリティー賞を、2005年には「セブラマン」で「日本アカデミー賞優秀主演男優賞」を受賞。

第10回 さっぽろオペラ祭 2015

二橋潤一 作曲 / 塚田康弘 台本・演出 / 渡部謙一 指揮

マドリガーレ・オペラ

「函館戦争」～榎本武揚と黒田清隆の戦い～ [本邦初演]

北海道教育大学・実験劇場 第三弾

～マドリガーレと現代オペラの比較研究Vol.1～

C.モンテヴェルディ作曲「タンクレーディとクロリンダの戦い」との比較研究。400年の時空を超えたマドリガーレ・オペラとして、我が国最後の内戦「函館戦争」における榎本武揚と黒田清隆の葛藤と人間愛を、作曲家 二橋潤一が塚田康弘の台本を基に社会性を持った新作室内オペラとして描き上げました。北海道開拓の礎となった偉人の生き様が舞台芸術作品として蘇ります。



絵図資料提供：市立函館博物館

北海道教育大学・実験劇場

TEL.0126-32-0310

(北海道教育大学岩見沢校広域地域連携グループ)

10月24日(土) 18:00 開演

小ホール

10月25日(日) 15:00 開演

入場料無料(要整理券) 9月7日整理券配布開始(先着順) ※未就学児入場不可 ※小学生は保護者同伴で入場可

整理券配布場所 | 北海道教育大学札幌駅前サテライト事務室、札幌市教育文化会館プレイガイド、岩見沢市i-ボックス

オペラコンサート

「響宴祭 Kyo-En-Sai」

Trick or Treat? 10月31日、オペラの魔法でハッピー・ハロウィン!

華麗なるオペラスター、夢の饗宴!! この日、あなたに衝撃が走る...

10月31日(土) 14:00 / 18:00 開演

小ホール

S席(指定席)4,000円 学生 1,000円

A席(自由席)3,000円 通し券 5,000円(自由席、限定20枚 ※教文プレイガイドのみ取扱い)

教文ホールメイト10%割引・Kitara Club5%割引(教文プレイガイドのみ)



札幌オペラシンガーズ

TEL.050-3740-2531

モーツァルト 作曲 / 岩河智子 編曲・訳詞

オリジナル訳詞

「バ스티アンとバスティエンヌ ～魔法使いと小さな恋人たち～」

必見! 札幌室内歌劇場オリジナルバージョン!

モーツァルトが12歳の時に作曲したオペラ。物語は田園での小さな恋物語ですが、今回独自に訳詞と台詞部分を作曲し、他では見られない作品に仕上げました。客席も限られた小さなスタジオを上演会場とし、オペラのエッセンスを堪能していただけます。



札幌室内歌劇場

TEL.011-211-0471 <http://www.opera.or.jp>

11月17日(火) 15:00 / 19:00 開演

研修室401

11月19日(木) 15:00 / 19:00 開演

全席自由 2,500円 ※未就学児入場不可 札幌室内歌劇場支持会割引・身障者割引 教文ホールメイト10%割引・Kitara Club5%割引(教文プレイガイドのみ)

松井和彦 作曲・指揮・演出

オペラ「花咲かじいさん」

[北海道初演]

落語オペラ「目黒のさんま」

今年日本語オペラ2本立て! 昔ばなしが、落語が、なんとオペラに!

昔ばなし「花咲かじいさん」と、名作落語「目黒のさんま」が楽しいオペラになって、北海道にやってきます。名作「泣いた赤おに」「イソップオペラ三部作」などを作曲した松井和彦氏による、あたたかな気持ちになれる音楽の数々。迫力たっぷりの生の歌声、でお楽しみください!



オペラ「泣いた赤おに」より

12月12日(土) 14:00 / 18:30 開演

小ホール

12月13日(日) 14:00 開演

全席指定

A席 5,000円(子ども券3,000円)、B席 4,000円(子ども券2,000円)

※子ども券は4歳～中学生まで ※乳幼児を伴ってのご来場はご相談ください。 北海道二期会維持会員10%割引(電話申込のみ) 教文ホールメイト10%割引・Kitara Club5%割引(教文プレイガイドのみ)

北海道二期会

TEL.090-6266-5313(専用携帯)

<http://www.hokkaido-nikikai.com>

PICK UP EVENTS

[教文主催事業ピックアップ]



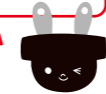
ワークショップ お囃子体験講座

11月16日(月) 18:30・11月17日(火) 14:30

今年で3度目となる「お囃子体験講座」を今年も開催。能は日本が誇る優れた伝統芸能であり、中でもお囃子は笛、小鼓、大鼓、太鼓が一体となって豊かな音色を奏でるシンプルで奥深い演奏が魅力です。各楽器の演奏を体験しながら、楽しさを味わえるような講座を行います。どなたでも楽しめる内容となっておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。



貴重な古典楽器を体験するチャンス!! お楽しみに!



櫻井ヒロによる 教文ダンスワークショップ・フェスタ

10月11日(日)・25日(日) 14:00
11月6日(金)・20日(金)・12月11日(金) 18:30

10月から12月までの3ヵ月間、国内外で活躍する札幌、小樽のダンサーを講師に迎え、子どもから高齢者まで参加できるワンコイン(500円)のダンスワークショップを行います!



micelle [櫻井ヒロ・河野千晶]

一流のダンサーによるワークショップを500円(各回)で体験!



[演出家・マイム・俳優]

小野寺 修二

Onodera Shuji



PICK UP
アーティストインタビュー

北海道は自分にとって大切な場所だと思いました。

小野寺 修二 プロフィール

北海道出身。カンパニーデラシネラ主宰。日本マイム研究所にてマイムを学ぶ。1995年～2006年パフォーマンスシアター「水と油」にて活動。2006年より1年間、文化庁研修員としてフランスに滞在。帰国後、カンパニーデラシネラを立ち上げる。作品はマイムの動きをベースに台詞を取り入れた独自の演出で注目を集めている。また、瀬戸内国際芸術祭2013への参加など、劇場内にとどまらないパフォーマンスにも積極的に取り組んでいる。フジエフェン演出作品「サニーサイドアップ」出演。近年は、音楽劇、演劇などで振付の担当もしている。第18回読売演劇大賞最優秀スタッフ賞受賞。

松尾スズキの絵本が原作の音楽劇「おじいさん」を演じた小野寺修二さんは、演出家・振付家・俳優として活動するアーティスト。パントマイムをベースとしたパフォーマンスシアター「水と油」で注目を集め、現在ダンスや演劇などのジャンルに捉われない表現で幅広い世代の観客を魅了しています。教文で公演を行うのは、2005年の「水と油」の10都市ツアー以来実に10年ぶりです。「もうそんなに経つのかとびっくりしました。今回教文を訪れたときに、当時北海道の親戚がたくさん見に来てくれたことを一気に思い出して、僕は4歳まで北海道に住んでいたのですが、すっかり忘れていた子ども時代の記憶までもがフツと呼び起こされて、不思議な感じなんです。今までは自分に故郷と呼べる場所はないと思っていました。

たけれど、北海道は自分にとって大切な場所なんだと改めて思いました。教文は自分のルーツを再確認させてくれた特別な場所です」
秋以降も自身の関わる舞台が続きます。「ライフワークとして続けてきた、ろう学校でのワークショップを発端とした作品のNY公演も楽しみです。あと今年には文化庁が派遣する文化交流使に選出されたので、ベトナムなど3カ国で作品発表やワークショップを行う予定です。ちょうどこの春からオーディションで募った若い人たちと共にカンパニーとして創作活動を始めたばかりなので、現地にメンバーを連れて行って共同制作の場をつくらいたいなと思っています。次はこのカンパニーによる公演で教文を訪れたいですね」



「異邦人」(撮影:杉能信介)

「ある家の家」初演 (撮影:片岡陽太)

上田龍成から指名→

さっぽろ 演劇人

No.005

北 氏 次 啓

まわりを見渡して、パスを出す。
笑いのゴールをつくりだす快感が、
舞台にはあるんです。

氏次 啓 プロフィール

2000年3月に劇団ギャクグレにて演劇とコントでの活動開始。2011年2月に劇団解散後も同活動に合わせ、MC、音楽ライブ、TVCM等幅広く活動する。現在はフリーで活動中。

ある時は役者ある時はお笑い担当、またある時はMCとして舞台に立つ。どの劇団にも所属せず、主役から脇役まで、ほぼ途切れずにオファーが来るという氏次啓さん。その不思議な魅力に迫ってみました。

——前回登場の上田龍成さんからのご指名ですが、上田さんとはどのようなつながりですか？

「上田君が主催する『札幌オーギリング』という大喜利対戦ライブがほぼ毎月開催されているんですが、そこで実況解説をしています。もとは演劇専用小劇場「BLOCH（ブロック）」で上演したお笑い系の舞台で出会ったと思います。彼もお笑いが好きなので、意気投合したんですね」

——お笑いの活動も多いようですが、最初は演劇から？

「高校の時、コントがやりたくて演劇を始めたんです。実際はコントと演劇ってぜんぜん違うんですけどね。その頃に、今は脚本家として頑張っている川尻恵太と出会って。卒業後、彼が『劇団ギャクグレ』を立ち上げるというので僕も参加しました。それとほぼ同時にお笑いの活動も彼としまして、M・1にも出場したんですよ、札幌予選通過で終わりましたが（笑）。劇団解散後は、フリーで活動しています」

——どこにも所属しないのは、なにか理由が？

「演劇でもお笑いでもMCでも、舞台だったらなんでもいいなって思いはじめたんです。お客さんを楽しませられるなら、なんでもいいじゃないかって。僕は自分が目立つよりも、アシストの方が好きなんですよね。僕自身がおもしろいことを言うより、誰かが言った小さな笑い、5人しか笑わないようなネタをツッコんだり無視したりすることで、10人、20人の笑いに変える。そうすれば、まわりのお客さんも『あ、笑っていいんだ』って変化する。笑いに火種をつけて、それが消えないように火をくべ続ける。そういう仕事を舞台の上で続けていきたいんです。お笑いだけじゃなく、シリアスな劇でもやりたいことは同じ。そう考えていくと、フリーの方がいろいろ出来る出て、やりがいがあります」

——これからの活動に向けて思うところは？

「今は、観に来るお客さんのジャンルがニュートラル。これまでは演劇を観に来なかった音楽やお笑いライブ好きな人が劇場に来るようになっていて、演劇にとっぴいチャンネルだと思えます。どんなお客さんが来てもおもしろい！って言うってもらえる舞台を作りたいし、やっぱりゴールを決める役より、いいパスを出す役割を真剣に務めていきたいですね」

今年7月に行われた劇団「yhs」の舞台「world is mine」ユウト役として出演



SAPPORO ENGEKIJIN
SATOSHI UJITSUGU